

2024 年度 卒業式・学位授与式 学長式辞

本日ここに、神奈川大学から晴れて「学士」の学位を授与された皆さん、「修士」の学位を授与された皆さん、そして「博士」の学位を授与された皆さん、おめでとうございます。卒業生、そして修了者の皆さんはもちろんのこと、皆さんを今日まで永きにわたり守り、育て、支えてこられたご家族・ご関係の皆さまのお慶びもひとしおのことと存じます。神奈川大学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは今、先生方や友人と、授業や実習あるいは実験で過ごした年月、図書館に身を置いて過ごした時間、そして課外活動に勤しんだ日々など、学生生活でのたくさんの思い出が、映画の場面のコマ送りのように去来していることと思います。

本日卒業される学部生の皆さんは、2021年度に入学され、思い起こせば未だコロナ禍の影響が残ってはいたものの、キャンパスは開かれ、対面で授業を受けることができました。また、クラブやサークル活動には何ら制約をうけることもなく、多くの友人を作り、学生生活を謳歌することができたものと思います。大学院を修了される皆さんも、落ち着いた環境の中で研究に専念することができたものと思います。

そして皆さんは、自分が大学、そして大学院における教育をしっかり享受し、深化させるにはどうしたらよいのか、自分の進むべき道はどのように探せばよいのかを考え、行動され、その結果、今日を迎えることができたのです。それは、皆さんが本学で「たくましい知性」を培い、身に付けてきた結果だと賞賛いたします。

神奈川大学は、来る2028年、あと3年で創立 100 周年を迎えます。神奈川大学は 100 周年、そしてその先の新しい時代に向けて大きく変化し、さらに発展してきました。

皆さんが入学した2021年度に、みなとみらいキャンパスは開設されました。横浜みなとみらい21地区は、国際的にビジネスを展開する企業や国際機関、そして官公庁や文化施設などウォーターフロントにおいて、水と緑と歴史に囲まれた、豊かな都市環境を創り出しています。ここで学ぶ本学の学生の皆さんにとって、学びの場は学内にとどまらず、街全体をキャンパスとして、社会・地域と密接に繋がる、まさに人と知の交流拠点として成長しています。みなとみらいキャンパスに集結した経営学部と外国語学部、そして新設した国際日本学部の卒業生の皆さんは、国際的な感性と時代を切り開く力を養い、これからのグローバル社会に貢献できる人材として成長してきました。

一方、横浜キャンパスでは、2022年度に建築学部を開設しました。本学の建築学部は、建築構造もさることながら、建築デザインやまちの再生を学修する文系出身者のコースをもつ特徴的な建築学部にも再構成しました。

その翌年の2023年度には、湘南ひらつかキャンパスから横浜キャンパスへ理学部及び理学研究科が移転しました。横浜キャンパスに所属している学生の皆さんや、教職員とともに「ようこそ横浜キャンパスへ」のメッセージを掲げ迎えたのは、つい一昨年の春のことです。さらにこの年には「化学生命学部」と「情報学部」を新設して、理工系5学部が横浜キャンパスに集結しました。学生の皆さんは、横浜キャンパスにおける新たな人のつながりを感じ、新たな神奈川大学の風景を作り出してきたのではないかと思います。

ここにいる卒業生、そして修了者の皆さんの中には、慣れないキャンパスで授業を受け、新たな環境の中で学び、研究活動が続けることに、多くの苦労や戸惑いを感じた方々もいたことと思います。それらを乗り越えて、この日を迎えられた皆さんの努力を、心から讃えたいと思います。

本日、卒業式を迎え、皆さんは神奈川大学という世界から、より広い世界に飛び立っていくことになります。さまざまな世界が、皆さんの目の前に現れることでしょう。それは、必ずしも希望に満ち溢れた明るい世界ばかりではありません。

例えば、戦争や紛争の世界があります。2022年2月にロシアがウクライナに侵攻して以降、本学でも毎年ウクライナからの留学生を迎えてきましたが、ウクライナ本土、そして戦地では兵士だけでなく、高齢者や女性、子どもたちにも多くの犠牲者が出ています。当然ロシアにも多くの犠牲者が出ています。ロシア政治研究の第一人者である、本学特別招聘教授の下斗米信夫先生は、ロシアとウクライナは歴史的に「兄弟国家」だと言われています。千年以上も前にロシアの起源とされるキエフ・ルーシー国家が成立し、キリスト教の一派である東方正教を受け入れました。現在のロシアもウクライナもその系統を持つ「兄弟国家」ですが、歴史的に複雑な関係性をもっており、東方正教でまとめようとするロシアと、そこから独立しようとするウクライナ、さらにカトリック教徒や、ユダヤ教徒を持つウクライナの信仰の複雑さなど、宗教が政治とからみあい、戦争に繋がることを下斗米先生は論じています。

また、現在、イスラエルとパレスチナが、ガザ地区で戦闘を行っています。近隣のシリアでも内戦が続き、アフリカでもリビアやナイジェリア、南スーダンなど多くの地域で紛争が継続しています。このような紛争によって故郷を追われた難民は、一億人を越えています。こうした現状から目を背けることなく、皆さん一人ひとりが、世界の多種多様な人類の中の一人として、ここに、こうして平穏に在ることの幸せを噛み締め、これから生きていく上で、この幸せをどのように守り、どのように世界に広げていくのかを考えてください。人類一人ひとりの存在価値は尊く、かけがえのないものです。私は、それぞれの人が持つ宗教、民族、文化などの多様性をお互いに尊重することが平和を守る第一歩だと考えます。皆さんが世界の恒久的な平和に向けて思いをはせ、持てる力を存分に発揮されることを、大いに期待しております。

さて、皆さんは、神奈川大学で、教職員や友人などさまざまな人とかけがえのない絆を築き上げてきました。そのつながりは、卒業した後も未来永劫消えることはありません。25万人を超える神奈川大学の卒業生そして大学院修了者の一人として、神奈川大学で培った知識や人脈など、さまざまな能力を活かして、これからも社会で活躍されることを期待しています。

そして、どうか母校としての神奈川大学を誇りに思い、いつでも本学を訪れてください。3年後に創立100周年を迎える母校神奈川大学は、いつでも皆さんを歓迎いたします。

皆さんの今後の幸せと、限りない未来を祈念しまして、式辞といたします。

2025年3月21日

神奈川大学長
小熊 誠